

普通救命講習が役に立った熱中症患者の救助報告について

大倉 重治

大阪大学大学院情報科学研究科

1. はじめに

近年、夏になると熱中症による事故が増え救急搬送が増加傾向になってきている。温暖化等の影響を考慮すると熱中症対策は極めて重要と言える。

今回、お話しするのが通勤途中で体験した路上（歩道）で女子高校生熱中症患者救助を行ったので報告します。

2. 熱中症基礎知識

熱中症基礎知識として、環境・からだ・行動これら3つの要因により熱中症が引き起こす可能性が大きくなると言われている。

- ・環境：気温が高い。湿度が高い。風が弱い。日差しが強い。急に熱くなった。エアコンが無い等
- ・からだ：二日酔いや寝不足といった体調不良。汗が出ないことによる皮膚から逃げる熱が少ない
- ・行動：長時間屋外に居る。水分補給が出来ない状況など。

3. 女子高生が倒れていた事故現場状況

令和5年6月20日午後4時過ぎ、気温28度前後、晴れ日影なし（無風）、湿度75%。関西が梅雨入りして1か月が過ぎ気温も上がり湿度の高い午後であった。

前方を歩いている女子高校生がその場に立ち止まり、倒れるのを目撃。私と前方から自転車に乗った男性（40代？）女子高校生を救出にあたった。

4. 女子高校生救助の流れ

4.1 外見から状況確認

○手足の痙攣。目は焦点が定まっていない。体には力が入らない状態。

4.2 意識確認

○声によるシグナルを送る（大丈夫ですか？）反応なし

○肩を叩いてから声によるシグナルを送る（大丈夫ですか？）嫌がる気配なし、反応したそうに見えるが出来ない様子に感じた。

4.3 熱中症を疑い路上から離れる決断をする。

○アスファルトが焼けそうに熱く。より熱中症の症状が進む危険性が考えられるので、「涼しい所」周りを見渡すが、日影が無いので、10m程度離れた薬局に逃げ込むことにした。

○一緒に居た40代？の男性、寄り添ってくれるだけで、情報の提供は無かった。

○私が女子高校生の後方から脇の下から両腕を入れ体を立たせ、蟹歩き（横に引きずりながら）のようにして薬局に向かう。その間、40代？の男性にお願いして女子高校生が持っていた鞆を持ってくれるようお願いした。（その時、なぜか女子高校生鞆から手を離すことはなかったので、鞆を運ぶから手を放してと言うと放してくれた）

4.4 救急車要請へ

蟹歩きしながら薬局に向かっている途中で、20代?の男性が後方から救急車手配しましょうかと言ってくれたのでお願いした。20代の男性が消防署から状況を説明してほしいとのことで、電話を交代し、情報を説明。消防署からの問い合わせで倒れた時の様子で、頭を強く地面で打っていないのか? (頭部からの出血の有無) 印象に残っている。

4.5 薬局に到着

薬局の出入り口ドアが開かない?。ドアの一部に触れないと開かない構造と後で知る。女子高校生を抱えながら色々試すが開かない。寄り添っていた40代の男性がドアに手を触れると開いてくれた。中から薬剤師の方が出てこられて事情を説明し、長椅子を2つ揃えて簡易的にベットとし、女子高校生を寝させることが出来た。

4.6 薬局内での女子高校生の様子

消防署の対応が終わり、そちらに向かいます。電話を切り、女子高校生の元に戻ると顔面から大きな水玉が出来るほどの汗が噴き出しているのを確認する。出た汗は拭かない方が良いと聞いた事もあり、その状態で見守ることにした。薬剤師の方が女子高校生に問いかけると反応が現れ、うなずいているように感じ(個人的には、これで大丈夫と思った。)薬剤師が手渡した経口補水液(ペットボトル)受け取り、飲むことが出来た。

5. 救急搬送

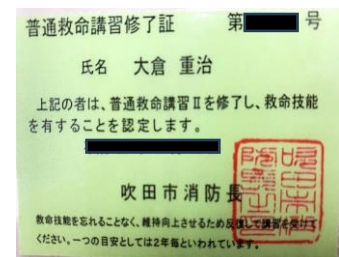
消防署員に事情を改めて説明し、すでに意識は戻っていたが念のために救急搬送してもらうことになった。

6. 資格取得

これまでに色々取らせて頂いた資格の一つに普通救命講習Ⅱがあるがこの講習会の経験が生かせることが大きいと思います。(講習会を受けていなければ救助出来ていなかったと思います。)

普通救命講習Ⅰ:呼吸や心臓が止まった時に大切なAEDを使用した心肺蘇生と異物除去の方法や止血法などのファーストエイド(その他の応急手当)を学んでいただく講習。

普通救命講習Ⅱ:普通救命講習Ⅰの内容に、心肺蘇生法に関する筆記と実技の試験が加わったもので、一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される方を対象とした講習です。



特に意識確認講習で、耳元で声掛け、肩を叩いての声掛けや胸やお腹の動きで呼吸を確認すること。

普通救命講習Ⅲ:呼吸や心臓が止まったときに大切な「AEDの使い方」を含む心肺蘇生法を学んでいただく講習で、主に乳幼児及び小児に対する処置の方法。

謝辞

女子高校生救助に対して薬局屋の薬剤師さん。抱を持ってくれた40代の男性。救急車の手配をしてくれた20代の男性。気が付けば30代の女性も居てくれた。皆さんの協力の元、女子高校生の命が助かったと安堵しておりますありがとうございました。